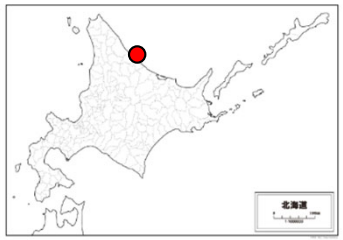
3.【水域：増殖場】二重堤間に藻場を造成し増殖場として活用：元稲府漁港（北海道雄武町）

概　要

○元稲府漁港では漁港周辺にコンブ・ウニの資源が乏しく、漁場が遠方のため漁業者の負担が大きい。
○長周期波対策として二重堤を整備する際に二重堤間の遊水地に藻場を造成し、コンブ及びウニの漁場として活用。
○二重堤内にて操業することで漁業者の作業効率が改善し、漁獲量が増加。併せてウニの質も向上。



背　景

- 長周期波の影響により、漁業活動に支障が生じる。
- 漁港周辺では、磯根資源はあるものの、コンブの繁茂が少なく、漁獲対象にならない稚ウニや身入りの悪いウニが多い。
- 漁業者は、コンブ・ウニを求めて遠方での操業となり、作業効率が悪い。

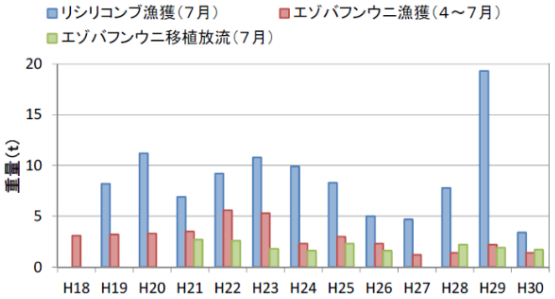
有効活用の内容

- 二重堤方式の新規外郭施設を整備し、港内水域の拡大を図ることで長周期波に対応。
- 二重堤間の遊水部に藻場を造成し、新たな漁場として利用。
- 浚渫により発生する浚渫岩を二重堤間に再利用し、コンブ・ウニの生育に適した藻場環境の造成とコスト縮減を図っている。
- 平成30年夏季も過年度同様にリシリコンブを優占種とした良好な藻場が形成されており、漁場として活用されている。

活用した漁港施設	水域（二重堤間の遊水部）
実施時期	平成15年度～16年度
活用した事業	水産基盤整備事業（自然調和型漁港づくり推進事業）
実施した手続き	特になし

効　果

- 二重堤間の藻場環境創出により、ウニ、リシリコンブの現存量および漁獲量が増加した。



二重堤間の漁場としての活用状況

- 二重堤内では、ウニの身入りの向上が確認された。

対照区　　二重堤内
ウニの身入りの状況の比較

- 静穏水域にて操業が可能となり、安全性の向上、労働環境の改善がなされた。
- 移動距離が短縮され、作業効率が改善された。

＜参考文献＞
・元稲府漁港二重堤間の藻場に関する考察～空撮画像を用いた藻場の現状把握～（第62回北海道開発技術研究発表会、2018）